

(社)全日本鍼灸学会

平成 22 年度 第 4 回理事会 会議議事録要旨

I. 開催の日時及び場所

日 時：平成 23 年 2 月 6 日(日) 午後 3 時～5 時
場 所：日本鍼灸会館 2 階講堂（東京都豊島区南大塚 3-44-14）

II. 議事の経過要領および結果

司 会：事務局長 福村昭
挨拶：会 長 後藤修司
議 長：会 長 後藤修司

議事に先立ち、後藤修司会長から挨拶があった。

【報告事項】

1. 各部中間報告（平成 22 年 10 月～12 月）

1) 事務局

福村昭事務局長より資料に基づき報告があった。

2) 財務部

小川副会長より資料に基づき報告があった。また、野口監事から 1 月 23 日に宮本監事と共に監査を行った結果、中間報告通り適正に処理されていることが報告された。

3) 学術部

篠原学術部長より資料に基づいて報告があった。

小川副会長より、査読方法について形式のみをチェックするのであれば、査読者は必要なく学術部だけで査読すればよいのではないかとの質問があった。それに対し、篠原学術部長から意見を踏まえ、今後査読方法について学術部で検討を行う旨回答があった。

4) 研究部

山下研究部長より資料に基づき報告があった。

5) 編集部

坂口編集部長より資料に基づき報告があった。
61 巻 1 号は 3 月中旬頃の発送を予定していることが報告された。

6) 組織部

安雲組織部長より資料に基づき報告があった。

7) 国際部

高澤国際部長より資料に基づき報告があった。

8) 広報部

金井広報副部長より資料に基づき報告があった。

2. 認定委員会事業中間報告（平成 22 年 8 月～10 月）

福村認定事務局長より資料に基づき平成 22 年 8 月から 10 月の事業中間報告があった。

3. 会員名簿発行に伴う収支報告
安藤組織部長より資料に基づき報告があった。
4. 第 60 回学術大会（つくば）準備報告
妹尾実行委員長より資料に基づき報告があった。また、福田学術副部長からプログラムの追加案について報告があった。
5. 第 61 回学術大会（三重）準備報告
津田中部支部長より資料に基づき報告があった。
6. その他
 - ・ WPRO 会議報告
後藤会長から資料に基づき報告があり、基本方針として各国における現行の医療制度の中に伝統医学を組み込むことで、保健・医療の質の向上を目指すことが紹介された。
 - ・ 定款等改正検討委員会報告
小川副会長から資料に基づき説明があった。公益法人に移行後は評議員会を設けないため、会員からの意見を集約する方法を検討中であるとの説明があった。第 61 回大会総会にて公益法人に関する議決を行う予定である。また、事業振り分けに関して「資格付与（認定事業）」「表彰（高木賞、学生ポスター表彰、卒業生表彰）」については、公益事業ではなく共益事業とすることが説明された。
 - ・ JLOM 関連委員会報告
東郷 JLOM 関連委員長から資料に基づいて報告があった。ICD11 に関する坂本参与の質問に対して、東郷 JLOM 関連委員長から、ICD の第 23 章の中に日本・中国・韓国・アメリカで使われる証の分類を 500 タームの中に入れ込むという姿勢であること、2014 年 WHO 総会にて承認を得るにあたり、使用にたえうるものなのかという審査が入ることが説明された。山下研究部長からは、分類に意義があるのか疑問であり、そういう本質的な議論がなされているのか、学会がどこまで関与するのかを考えるべきだという意見が出された。また、篠原学術部長からは「国ごとの表記にしているのか」との提案が出された。以上を踏まえ、後藤会長から学会のみならず、鍼灸関連団体を集めて「日本鍼灸委員会」といったものを作って、取り組んでいく必要があるとの発言があった。
 - ・ 伝統医学に関わる生物多様性条約での生物遺伝資源と伝統的知識の現状
小野オブザーバーから資料に基づき上記講演会についての説明があった。

以上、報告事項は全て了承された。

【審議事項】

1. 平成 23 年度各部事業予算原案
小川副会長より平成 23 年度各部予算原案について説明があった。原案の変更点として、正会員の増加を反映して、正会員会費収入を 3250 万に増やし、事務員人件費を 700 万、福利厚生費を 10 万に変更することが述べられ、以下の補足説明があった。
 - ・ 国際学会派遣費、JLOM 関連諸費については、国際シンポ準備金から支出できるよう規程の変更を予定している。
 - ・ 鍼灸医療推進研究会に関する予算については、来年度は新しい組織作りの準備作業を行う年となり、原則として新規事業は行わない。鍼灸ネットなどの維持費として 100 万計上し、500 万減とする。調査研究部会が行っていた事業については、学会が引き継ぐため、研究部を中

心に内容を検討し、予算を計上する。

- ・公益法人化に向けての遊休資産対策に対して、年限・用途を限定しない公益事業として予算計上ができることが判明したため、支出を最小限にした予算案となっている。

また、常任理事会での決定を受けて、原著論文を英語化するための予算を100万計上する。これから出される原著論文を対象とするが、過去に出されたもので英語化すべきものがあれば、研究部・学術部にて推薦することになった。

以上、審議の結果、平成23年度各部事業予算原案は賛成多数で承認された。

2. 認定委員会委員

福村認定事務局長より委員名簿案が提示され、まだ本人の意向を確認できていない委員候補もいることから、各支部における協議で変更となる可能性があることが説明された。審議の結果、賛成多数で承認された。

また、小川副会長から認定名簿を関係機関に対して毎年送付していることに対し、費用対効果の面から隔年にしてはどうかとの提案があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

3. 第60回学術大会（つくば）における審議

妹尾実行委員長より、スティーブンアウン氏門下の学生の扱いについて、会費は学生会員の金額とし、懇親会費は学会負担とすることの提案があり、審議の結果、賛成多数で承認された。

4. 入会審査

平成22年7月25日から平成23年2月5日までの間に入会申請のあった者に対して入会審査を行った結果、全員の入会が賛成多数で承認された。

5. その他

- ・日本顔面神経研究会編「顔面神経麻痺診療の手引き」について

安藤組織部長から、鍼灸治療の推奨度に関する経過報告として、研究会からの回答が紹介された。審議の結果、今回の顔面神経麻痺ならびに、以前学会として抗議を行った円形脱毛症について研究を公募し、質の高いエビデンスをそろえる取り組みを行っていくことが賛成多数で承認された。

- ・業態アンケートの実施について

小川副会長から、医道の日本の協賛で行われる業態アンケートに関し、アンケート用紙を61巻1号の学会誌に同封し、結果については医道の日本誌に掲載されることが説明された。審議の結果、賛成多数で承認された。

- ・平成22年度高木賞について

篠原学術部長から高木賞の選考結果について、対象論文10編のうち、高木賞該当論文はなし、奨励賞3編が選出された旨、報告があった。審議の結果、賛成多数で承認された。

- ・「国際中医師」「国際鍼灸師」についての注意喚起

高澤国際部長から、「国際中医師」「国際鍼灸師」の業務範囲が不明瞭なことについての注意喚起について提案があった。審議の結果、注意喚起を行うかどうか再検討することが賛成多数で承認された。

- ・2011WFAS ブラジリア大会助成について

高沢国際部長から提案のあった、発表演題に対する助成について、審議の結果、予算編成方針の変更から、助成を行わないことが賛成多数で承認された。

以上、全ての議題について賛成多数で承認された。

以上をもって、平成22年度4回理事会の議事を全て終了した。